

## ● 目次

- 2 ひと人ひと
- 3 特集 市民力を生かす  
～協働のまちづくり推進事業～
- 8 いしかわ森林環境税で森づくり
- 9 平成21年度9月補正予算のあらまし
- 10 と～くあばうと／市長談話室／  
ななこちゃんのエコ生活
- 11 今月の市民相談／ケーブルテレビ番組  
紹介
- 12 情報ランド
- 18 まちの顔
- 20 伸ばせ！七尾っ子プロジェクト／  
児童館へ行こう
- 21 イベント情報
- 22 休日医療情報／不用品活用銀行
- 23 みんなの本棚
- 24 のとじまおまつり祭り／わが家のアイドル

## 今月の表紙

7月の七尾港まつりのうち、雨天により延期されていた「ちびっこカーニバル」が約1カ月遅れで行われた。子どもたちの踊りを楽しみに、この日を待ちに待った家族や見物客が七尾マリンパークに詰めかけた。

市内24の保育園や幼稚園から472人の園児が集まり、色鮮やかなそろいの法被姿で、日頃の練習の成果を披露した。曇り空をも吹き飛ばすような、元気な子どもたちの笑顔と踊りに、会場を囲んだ観客からは大きな拍手が盛んに送られていた。来年の七尾港まつりでも、元気な園児たちの姿を楽しみにしたい。

ひと

ヒト

## 特産品を生かして元気発信!!



海老さん(左)とメンバーの吉田孝子さん

生き活き工房「ねねの会」

代表 海老恵子さん

(能登島向田町)

退職を機に、何か一つでも能登島のためにできることがないかということを考えたとき、まずは「地域資源の掘り起こし」をと、能登島の特色である赤土を利用したジャガイモづくりを思いついたことが活動のきっかけ。平成6年に5人で始めた活動は今年で16年目になる。現在は、能登野菜として認証された赤土ジャガイモ(赤土ばれいしょ)、金

糸瓜、中島菜などのさまざまな野菜の栽培と、それらを原料としたお弁当やお菓子などの加工品の販売にも取り組んでいる。無添加、地産地消にこだわっており、新たな加工品の開発にも努力している。野菜は主に農協を通じて市場へ出荷し、JA能登わかば直売所「わかばの里」(本府中町)や能登島交流市場(能登島向田町)などの店頭にも並ぶ。

インターネットでの注文も始めたところ、予想以上に注文が入ってくることに驚いている。食の安心・安全への意識が高まっており、顔の見える食材を求める声が多く、東京や大阪へも販売している。「自分たちがおいしいと思わないものは、誰もおいしいとは思ってくれない。作っている自分たちがおいしいと思うから、自信を持ってほかの人にも勧められる。出荷先からの評判もよく、

そのことがやりがいにもつながっている」と喜びを語る。

一方で、これまでの活動を通じて「全てボランティアでは限界があるし、活動が長続きしない。今はほんの気持ち程度の日当しか工面できないが、将来的には売り上げを伸ばして、みんなに賃金を払われるようにしたい。そうすることで活動が継続できるし、活動の幅も広がる」と冷静に将来も見据えている。

「能登島に生まれて本当に良かったし、能登島で暮らせることが楽しい。地域がもつと良くなり、人々ももつとつながれば、地域はさらに活性化する。みんなを元気に、七尾を元気にしたい」その明るい表情と言葉から迷いは感じられない。能登島の「味わい」がそこにはある。

# 公開プレゼンテーション

平成21年度 七尾市協働

特集

## 市民力を生かす

「もっと地域を良くしたい、七尾のまちを元気なまちにしたい」そんな思いが集った8月22日。

今年度から新たに七尾市が取り組む「協働のまちづくり推進事業」の公開プレゼンテーション（提案・発表）会場では熱のこもった発表が行われました。

それぞれの提案内容は分野もレベルも千差万別。ただ、そこにはまちづくりのヒントと無限の可能性が秘められていました。

今回提案があった活動を紹介しながら、歩み始めた「市民が主役のまちづくり」を考えます。

